

# 自然微生物農法

## 畑作マニュアル（概要）

### 1. 自然が植物を育てていることを再認識しましょう

#### (1) 雨の後、植物は急成長する。何故？

植物の根は、土壌中の微生物の死骸（たんぱくとミネラルの結晶で有機物）を栄養源として吸収している。

このたんぱくを葉まで運ぶと、雨が持ち返った空気中の窒素とたんぱくは結合します。これが天然の窒素肥料となります。葉に棲息している好気性菌が光合成により、死骸のたんぱくをアミノ酸に変換します。これが栄養源で植物は育ちます。

同時に  $\text{CO}_2$  とメタンガスを  $\text{O}_2$  (酸素) に変換しています。

雨が持ち返った空気中の  $\text{O}_2$  を根が吸収します。土壌も  $\text{O}_2$  を吸収し、腐敗をさけます。土壌中の小動物もこの  $\text{O}_2$  で生きます。小動物の糞はバクテリアの塊ですから、植物の根の栄養源になっているのです。

微生物(バクテリア)が植物を育てている主役なのです。

微生物の餌が土壌肥料そのものになることを現代人は忘れていました。

無機物の N.P.K 化成肥料は、肥料になっていないのです。土壌中のミネラルを集める働きはありますが、土壌中の有機ミネラルは不足しっぱなしです。

#### (2) 原野の開墾地や焼畑農業では、虫も雑草も 2~3 年間は発していません。何故。

林や森林には軟らかい土が多く、植物は元気です。何故、軟らかい土が多いのか・・・

葉には好気性菌（男）が棲息し、土壌には嫌気性菌(女)が棲んでいます。

葉が落ちると土壌の嫌気性菌とくっつきます。男と女が結婚しますから、子供が産まれます。この子供が軟らかい土壌なのです。土壌は微生物そのものであり、生きているものとその死骸の集合体なのです。この事実を現代人は忘れ去っています。微生物の餌は人間と同じ有機物で、ミネラル成分がないと増殖出来ません。原野は枯葉のミネラルが濃いから、土壌のバクテリアがこれを餌として、栄養豊かな土壌となっているのです。焼畑も草の葉のミネラルが灰に多く、土壌のバクテリアの餌が多いから栄養豊かな土壌になるから、虫も雑草も生えないのです。

土壌栄養が不足すると、栄養失調の野菜となります。

自然界は優性遺伝で強い子孫のみが生き残る仕組みです。栄養失調や病気の子孫を残してはいけなから、虫が存在しているのです。

#### (3) 太陽と月によって植物は育ちます。

- ① 太陽…太陽の光エネルギーによって種は発芽し、植物は光によって光合成して、アミノ酸を作り、酸素を作ります。酸素は生命エネルギーそのものです。

- ② 月…月の満ち欠け。満月～新月まで欠ける月。新月～満月まで満ちる月があります。種蒔きは新月～満月の間に、欠ける月の2週間は発芽しません。果菜の収穫は新月前後に行うことをおすすめします。水分が少なく甘みがある。鮮度保持力も最大です。満月の収穫は水分が多くて、甘みが無く、すぐに腐りやすいのです。現代は 月のカレンダーを利用して農業を行っている人はほとんどいません。自然に沿った農法を今一度見直す時代が来たのかもしれませんが。

## 2. 液体肥料・・・作るのも、散布するのも非常に簡単で便利。体力を必要としません。

### (1) 土壌用肥料

植物も細胞の世界です。細胞が元気に育つと病虫害は発生せず、味も最高、収穫量も最高です。アミノ酸は400種以上、ミネラルは70種、自然界にはあります。

N.P.Kの3種類では決定的に栄養不足です。総合アミノ酸、総合ミネラルを持ち、作り出す能力の一番高い植物の微生物醗酵液です。雑草は土壌が有機ミネラル不足になると、そのミネラルを持った雑草が生えます。液体肥料には総合ミネラルを持っていますから、雑草抑制にもなっています。一反に本液を60ℓ散布して下さい。散布の前に土を10～20cm位耕し、液肥が土壌中に浸透するように散布して下さい。根の位置に肥料があると吸収しやすくなります。米糠は微生物の最高の餌となりますから、土壌へ与えて下さい。畑に散布すると、土壌中のダイオキシン、農薬、除草剤成分等を1ヶ月でほとんど無害化します。

### (2) 雑草抑制

その畑に生えている雑草を多い順に1～10位ぐらいの雑草の葉を送ってもらえば、その畑の雑草抑制液を作ります。雑草を抑制することが出来ます。(葉の量は固めて20位) 雑草の土壌に本液を30ℓ/反 散布して、1週間位あとで雑草を引き抜くと土壌が軟らかくなって、雑草が抜きやすい状態となります。雑草を抜いてから、再び本液を20ℓ/反 散布して下さい。

### (3) 葉面散布液

本液を水で50～100倍に薄めて、葉に散布してください。軽く湿る程度。植物の成長を大きくする成分を持った植物や低温でも光合成する植物の微生物醗酵液です。

### (4) 病虫害予防液

人間には薬草となるもので、無害のものを使用しています。水で100～200倍に薄めて、葉に散布して下さい。土壌も10cm位耕して散布すると、セン虫等の被害が防げます。トマトのウィルスによるシルバーリーフ対策液もあります。

### (5) 害獣の忌避液もあります。 薬草・薬木が原料です。

(6) 連作障害対策液

連作障害は同じ野菜の連作により、土壌の栄養が不足することが原因です。  
 対象野菜の葉で連作障害対策液を作ります。 各自対応 (葉の量は、鍋一杯の葉)  
 具体的な醗酵のやり方は、下記の**自然微生物農法 DVD** を購入した方に、  
**農業用 醗酵液の増やし方 DVD** をプレゼントしています。

(7) ピラミッドパワー土壌改良剤

エネルギーの高い野菜の収穫が期待できます。  
 20ℓ 10,000 円送料込みです。

(8) ハウス土壌改良液・・・各自対応 上記の連作障害対策液と同様の作業。

(9) 土壌有害物の除染

水銀、カドミウム、重金属、ダイオキシン、塩分、農薬 etc.

<p>自然微生物農法</p>	<p>DVD 169分</p>	
	<p>【収録内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・植物は誰が育てているのか</li> <li>・誰でもプロになれる自然農法の紹介</li> <li>・薬膳野菜の作り方</li> <li>・巨大な野菜の作り方</li> <li>・現代農法の問題全ての解決策…無農薬、病害虫忌、連作障害、異常気象対策、etc…</li> </ul>	
<p>書籍シリーズ NoA-01 A4 版 26P</p>	<p>書籍シリーズ NoA-30 A4 版 24P</p>	<p>書籍シリーズ NoA-31 A4 版 35P</p>
		

## 農業用醗酵液の種類と使用量

※1 反は 300 坪です。小さい畑などでご使用の際は、比例計算して下さい。

	NO.	名 称	使 い 方
土 づ く り	1	総合土壌改良液	60 L/反 土壌散布 水銀、ダイオキシン、農薬、放射能、塩分、油分、重金属 etc. を分解します (水で 2 倍希釈 : 120 L/反 3 倍希釈 : 180 L/反)
	2	雑草抑制液 (各自で醗酵)	30 L/反 土壌散布 ※畑固有の雑草…その畑の雑草で各自醗酵
	3	連作障害対策液 (各自で醗酵)	30 L/反 土壌散布 ※連作障害する…その作物で各自醗酵
有 害 物	4	放射能除染液	葉と土壌が湿る程度散布
成 長	6	成長促進液 (葉面散布用)	50~100 倍に水で希釈 葉面散布 週 1 回程度 作物を観察しながら調整。
病 気 ・ ウ ィ ル ス	7	病害虫予防液	200~300 倍の水で希釈 葉と土壌に散布 週 1 回程度 作物を観察しながら調整。
	8	ウィルス病予防液	200 倍の水で希釈 葉と土壌に散布
	9	シルバーリーフ対策液	トマトやその他のウィルス病の野菜、果菜に。 200 倍の水で希釈 葉と土壌に散布
	10	パナマ病対策液	バナナやその他のウィルス病の野菜、果菜に。 200 倍の水で希釈 葉と土壌に散布
薬 効	11	薬膳野菜用 (Ge, Se, Li, Zn, P, Sa…)	50~100 倍に希釈 葉面散布
	12	ベータカロチン用 (アスタキサンチン)	50~100 倍に希釈 葉面散布
獣	13	獣忌避液	100~300 倍の水で希釈 葉と土壌に散布
田	14	水活性液	2~4 L/反 の水に注入